

直売所出荷者グループに対する仏花用中輪ギク栽培の導入

東近江農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

仏花は8月盆前が需要期です。しかし、近年は天候不順や夏季の高温により、キクの開花がそろわず、より確実に需要期出荷ができる品目や技術の導入が課題となっていました。

そこで、電照による出荷時期の調整が可能な中輪ギクの導入を提案しました。これまでの中輪ギクは、高い栽培技術や専用のハウスが必要でしたが、農業技術振興センターで開発された夏秋中輪ギクの短茎多収栽培技術を活用すると、簡易ハウスでも容易に栽培することが可能です。

今年度は、あいとう直売館に切り花を出荷するアイランドフラワー部会の構成員で栽培を希望された5名の生産者に対して、栽培技術の支援を行い、需要期におけるキクの安定出荷栽培を支援しました。

【普及活動の内容】

5戸の新規生産者に対して電照設備の導入を支援するとともに、1戸のハウスを実証ほにし、栽培管理や生育状況を調査しました。また、これらのデータを活用して、アイランドフラワー部会の全生産者を対象に、ポイントとなる時期に栽培管理研修会を開催し、直挿しや摘らい等の栽培管理や電照による開花調整についての技術習得を支援しました。合わせて、5戸の生産者を個別巡回し、状況に合わせて栽培管理の技術支援を行いました。

【普及活動の成果】

これまで地元で栽培されていなかった中輪ギクが組み込まれた仏花が店頭に並びました。また、直売所の取扱いが最も多い盆前の需要期に集中的に出荷でき、直売所の8月期の切り花類の売り上げは前年度比119%となりました。

実証ほとした1戸のハウスを研修会で活用したことにより、次年度は新たに2戸の生産者が栽培される見込みです。一方、直挿し期間中の葉焼けの発生、収穫間際の害虫の発生による品質低下、花首の徒長など新たな課題が確認されました。11月の研修会では反省点を整理し、次年度に向けた栽培改善について提案しました。これらの提案内容について、次年度はさらなる品質の向上を目指し支援していきます。



写真 直売所に並んだ中輪ギクが組み込まれた仏花

◎対象者の意見

盆の需要期に収穫、出荷ができて良かった。電照の効果が実感できた。(Y氏／生産者)